

日本学術会議公開シンポジウム「新たな歯科医療制度を考える」講演内容の公開にあたって

日本学術会議 歯学委員会歯科医療制度に関する検討分科会
委員長 古谷野潔

我が国においては、近年、若年者層におけるう蝕の著しい減少がみられる一方、超高齢社会の到来を背景に、要介護者や寝たきり老人、重度の全身疾患を有する患者の増加等、歯科医療を求める患者層および疾病構造が大きく変化してきており、また今後も大きく変化することが予想される。こうした歯科医療に対する社会のニーズの著しい変化に適確に対応していくために、歯科医療は大きく変わることが求められている。また、近年の医学・歯学・工学等の発展に伴い、新しい治療法、治療用材料・機器が開発され、歯科医療は年々多様化、高度化している。今後、これらの多様化、高度化した治療を国民に効率的に供給する体制を構築するかについても検討する必要がある。

口腔領域の疾病構造の変化や社会の歯科医療に対するニーズの変化を明らかにし、新しい歯科医療制度のあり方について検討することを目的として、2010年12月17日に第1回の公開シンポジウム「新たな歯科医療制度を考える」を、2011年7月25日に第2回の公開シンポジウム「新たな歯科医療制度を考えるⅡ」を開催した。

これらの2回にわたるシンポジウムでは一定の結論を得るまでには至らなかったが、有意義な検討が行われたので、その講演内容を学術会議のホームページを通じて公開することとした。